

いしづち

愛媛労災病院広報紙第4号

2003年10月5日発行

発行人：病院長 西岡幹夫

【愛媛労災病院の理念】

当院は働く人々のために、
そして地域の人々のために
信頼される医療を目指します



愛媛労災病院広報紙第1号を見て

名誉院長 伊藤 雅治

皆さん、ご無沙汰しています。名誉院長の伊藤雅治です。定年退職して4年が過ぎました。世の中の移り変わり、意識の変革により、医療の世界も大幅に変わってきました。当院もその例に漏れません。この4月から西岡院長が着任され再建に向けて大いに指導力を発揮し、職員一同力を合わせて努力されていることに対して敬意を表します。

7月に職員の和と、若手の意見をくみ上げ全員にやる気を起こさせること、又一般広報にも役立てようと新しく「病院ニュース」が発行されました。非常に喜ばしいことです。従来より、愛媛労災病院は宣伝することが不得手でした。医療法第69条の広告の制限という規定により、立派な経歴を持った医師がいても、又立派な施設・医療機器を備えていてもこれを宣伝することができなかったことは確かであったが、来院されて実感された患者さんの口伝で、伝わることに頼り、特別な努力をしていなかったことは反省に値すると思っています。

幸い職員一同が真摯に患者さんに対応し、増改築効果も手伝って立派な成果をあげてくれたので、他院に比べ外来患者数もベッドの利用率も群を抜いていましたが、患者紹介率の低さは、診療所の先生方に病院の情報が行き渡っていない恨みがあり、又医師会員との付き合いの低さが原因であろうと考えられます。新居浜市は岡山出身者、住友OBの先生方が多く、よほどの優れた特徴があるか、個人的な付き合いの深さがなければ太刀

打ちはできないでしょう。インフォームド・コンセント、情報公開の波に乗り切れず、他院の意識改革や、整備状況の好転により、その座を奪われつつあるように思われます。

情報公開条例により、広告制限は多少緩和されました。情報公開は患者情報を患者本人並びに家族に対して公開するだけでなく、患者が正しい選択ができるように、病院の情報を公開することも重要なことになっていると思います。従って職員の意識の改善、病院機能の人的・物的整備が必要です。今回の病院ニュースの発行は、病院機能評価を受けようという努力と共に時宜を得たことだと思います。

私は看護専門学校の校長として、看護学生の教育や実習を通じて、他院の状況を見聞する機会が多くなり、参考にすべきであると感じることが多々あります。皆さんも診療を通じ、又世間との付き合いを通じて感じたり気づいたりした事を、この紙面を通じて発表し、皆で考え改善の一助にすることは必要です。このような広報紙が人に読まれ長続きするためには、できるだけ多くの方が投稿すること。文芸その他趣味、生活の知恵、街で感じた興味のあること、美味しいもの巡り等面白い記事も必要でしょう。本紙が益々発展し、病院の絶えざる改善と広報の一助になることを祈念します。

過眠症：ナルコレプシー

精神科部長 稲見 康司

一般に睡眠障害というと不眠症と考えられがちですが、通常の日常生活に影響を及ぼしたり、あるいは例の新幹線の運転手のように、職業上の能力に影響を及ぼす状態を意味するものであり、正確には睡眠関連障害とするのが正しいと考えられています。今回は、「居眠り病」というあまりありがたくない別名をいただいているナルコレプシーという病気について記します。

ナルコレプシーとは、直訳すれば睡眠発作であり、日中の耐えがたい眠気が主症状です。また、大笑いするとか、驚愕するとかの大きな情動の変化に伴ってみられる情動性脱力発作もよくみられる症状です。その他に、睡眠の始まる時期の幻覚(入眠時幻覚と呼ばれ、多くは幻視)や夜間中途覚醒時の金縛り体験などを併せ持つ場合が多いようです。多くは中学生から高校生の頃に昼間の眠気を自覚するようになり、周囲が最初に気づく症状は、昼間の居眠り、つまり過眠です。私が赴任して約1年間で、外来に來られたナルコレプシーの方は5人です。生活指導と薬物療法によってナルコレプシーの症状はコントロールが可能であり、普通の日常生活が送れ、また仕事にも大きな問題が生じることはありません。

ナルコレプシーの病因は、神経伝達物質であるハイポクレチン(オレキシンとも呼ばれる)が関与する、視床下部から青斑核に投射する神経系の障害であることが、最近になって分かってきました。オレキシンという異名は、この神経系が食欲の多寡と関係することからつけられています。つまり、おいしいものをいっぱい食べて満腹状態になると眠くなるという経験則は、ハイポクレチンの作用が弱まることによるもので、逆に空腹状態にあるといらいらして覚醒水準があがることは、ハイポクレチン神経系の機能亢進によるものです。

ナルコレプシーは完治はしませんが、高齢になると症状が軽くなることも知られています。その間何十年かは、医療が必要とされる状態が続く訳ですが、十分にその症状は軽減させることが可能です。睡眠障害の治療を専門としている診療科は種々ありますが、日本睡眠学会認定医が在籍する医療機関に相談することが、現時点では最良の選択であると考えます。



ナルコレプシー患者(15歳)の睡眠ポリグラム

今年はやっぱりこの話題！！

薬剤部 伊丹 元治

平成12年4月から当病院でも院外処方箋が開始されたのは、みなさんも知っての通りである。その為と言うわけではないが、最も多い時で13人だった人数も現在は薬剤師が6名、薬剤助手が2名となり、8人で頑張っている。「外来調剤がなくなったから薬局は暇になったろう・・・？」と言う人がいるが実際はそうではない。薬剤部の業務は病棟での薬剤管理指導、入院調剤、注射薬の払い出し、薬物血中濃度の測定・解析、診材・製剤の払い出しなど現在でも多岐に渡っている、誰かが休みでもすれば通常業務にも支障がでてしまいそうな忙しさ。猫の手も借りたい気持ちとはこのことか・・・。

そんな中、今年病院機能評価を受けることになり、その準備が始まった。病院全体として一つの目標に向かうなか、勉強会や講演会の開催回数や出席率、各部署の業務改善内容、病院施設の改善をみてもその意気込みが感じ取れる。もちろん薬剤部も例外ではない。各種マニュアルの作製、他部署間との連携強化、医療安全に対する取り組み、機器に関する整備(一つ一つ書いているとそれだけで終わってしまいそうなので止めておく)など準備するものが数多く、それはそれは大変な業務量となった。通常の業務時間内では通常業務をこなすのが精一杯であり機能評価の準備にまで手が回らない。夕方5時過ぎになってやっと取りかかれるが、それでも終わらないものは家に持ち帰ってこなして行く、そんな日々が続いている。(こんなに頑張ったんだから是非、一発で合格したいものである)つくづくマンパワー不足の悲哀を感じるこの頃。もうみんなヘトヘト(?)と思いきや少ないながらも、一致団結して鉄の結束で頑張ってます僕達は。



前列左から 浜根(現在産休中)、白石(8月で退職)、宮崎 薬剤部長、高橋(8月から採用) 後列左から 真鍋、福田、伊丹、小野、渡部、松下です。少し写真写りが悪いようです(^_^;) 本当はもっと美しい(?_?) スタッフ揃いですので薬局で確かめてみてください。(^_^)

南5階病棟

南5階病棟スタッフ一同

南5階病棟は心臓血管外科、循環器科、内科45床の混合病棟です。

近年心臓血管外科OPやインターベンションの増加によりうれしい悲鳴をあげております。

病棟業務の1シーン

「心カテ3例目の呼び出しです」、「心外OPに出ます」、「PCIの・・・さんをICUへお迎えに行きます」、「急患入院ですよ」、「輸液ポンプのアラームが鳴っています」、「ターミナル期の・・・さん、血圧下降していますが」その合間に心不全患者様のモニターに異常波形出現ピーコピコ！

ああ、体が2つ欲しい。でも大丈夫。業務に追われて顔が引きつりそうになっても当病棟のモットーは「明るい笑顔と挨拶」です。ナース歴25年のベテランから新人まで団結心は強く、がっちりチームを組んで医師と共に、時には議論になりつつも患者様のために継続医療に取り組んでいます。特にセルフケアはどんなに遅くなっても努力しています。ただ化学療法で入退院を繰り返される患者様への精神的援助はスタッフ一同葛藤を抱えながら今後に残された課題としてとらえております。

これからもしっかり勉強！しっかりリフレッシュ！元気で頑張ります！！



早朝合同カンファレンス

糖尿病教育入院

クリティカルパスの始動

内科医師 太田 逸朗

糖尿病教育入院とは、糖尿病についての正しい知識を身につけ、適切な治療方針を立て、良好な血糖コントロールを達成し維持することを目的とした入院プログラムのことです。当科ではこれまでも糖尿病教育入院を行っていましたが、教育プログラムが必ずしも効率的でなく入院期間が長くなりがちでした。この度、当院独自の糖尿病教育入院のクリティカルパスを作成しようという声の主が主にコメディカルスタッフの中から高まり、その熱意に押される形で7月3日より早朝ミーティングを開始することとなりました。

当初は、多忙な各部署のスタッフがどのくらい集まれるかが不安の種でしたが、直接患者指導に携わる内科(糖尿病担当)医師2名、眼科医師1名、外来看護師2名、南6病棟(内科病棟)看護師2名、病棟薬剤師1名、管理栄養士3名、理学療法士2名、臨床検査技師1名の他に、退院後の生活支援に知恵を貸して下さるMSW1名、そして入院業務を統括する医事課からも1名の参加を頂き、総勢16名のメンバーで週1回議論を重ねました。そのミーティングをとおして、複数の部署のスタッフによる全員参加型医療チームの体裁も整い、この9月からいよいよ新しい糖尿病教育入院プログラムが走りはじめております。開業医の先生に患者様を紹介していただき、退院時には入院中のデータを取りまとめて紹介元の先生に再紹介を行うという病診連携を通じて、当院がより一層地域医療に貢献できるよう今後もこのプログラムを発展させていこうと考えております。今後も各科の先生がたをはじめコメディカルの皆さんの御協力を心よりお願いいたします。

愛媛労災病院 公開糖尿病教室

今年も「第39回・全国糖尿病週間」が11月3日(月)から10日(日)まで開催されます。愛媛労災病院におきましても、それに先立ち下記の内容で行事を行う予定にしています。糖尿病の方、糖尿病を予防したい方、そのご家族や近所の方等、どなたでもお気軽にお越しください。食事会については申込及び参加費が必要です。

日 時：平成15年10月25日(土) 9時～13時
場 所：玄関待合ロビー/大会議室/1階食堂
実 施 内 容
9時00分～10時30分 医療相談と展示(玄関待合ロビー)
医師・薬剤師・管理栄養士・看護師による医療相談
展示(栄養管理室)
調理済み食品の展示(エネルギー量表示)
パネル展示(看護部)
血糖値測定、身長・体重・体脂肪率測定(看護部)
血管年齢測定(検査科)



公開糖尿病教室のパンフレット(部分)

詳しくは、内科外来までお問い合わせ下さい

アートとサイエンスを身につけた 胸部外科医を目指して

心臓血管外科副部長 白澤 文吾

当科は心臓血管外科、呼吸器外科を担当しています。さらに常勤呼吸器内科医がいないため、肺癌の化学療法も担当しています。医師は友澤部長、花田医師と私の3人です。友澤部長は全体統括と呼吸器症例を中心に担当しています。花田医師の籍は外科にあります。研修の一環として外科と当科の両科で修練されています。そのため時間的拘束および duty の仕事が多く、院内で最も忙しい医師ではないかと思ひます。そのために、少しでも身になることを多く勉強してもらいたいと思ひ、教育的配慮の下に指導しています。白澤は主に外科手術一般を友澤部長の指導の下に担当させていただいております。術後、病院の表玄関から患者様を歩いて帰すことを目標に頑張っています。とかく経験論のみでの申す風潮がある外科ですが、最近の医学の進歩を考えると、外科にも「アート」のみならず「サイエンス」も重要と考えています。経験もむろん大事ですが、科学的思考力もないと、今後の新人類世代の医師を納得させて教育することは不可能ではないかと思ひます。そのため学会発表と学術論文の執筆にも力を入れており、最近1年間で論文投稿8件、学会発表11件と頑張っており、当院の巷に対するアピール度にも多少は貢献しているものと自負しております。

施設としても、外科学会と胸部外科学会の認定修練施設に認定されており、24時間体制で手術可能な状況です。友澤部長は外科指導医、胸部外科認定医であり、白澤は外科専門医、胸部外科認定医です。本年から、外科もサブスペシャリティーの専門医制度が発足し、二人とも心臓血管外科専門医の資格を修得予定です。

西岡院長就任以来、病院も活気づき、病床稼働率を上げるために院内一丸となって取り組んでいます。当科は15床を担当しており、専従医師2人のみではきつい部分が多々あります。しかし、私たちはプロ集団でありますので、結果がすべてと考えて努力しています。割り当ての15床を埋めるために、友澤部長を先頭に悪戦苦闘しています。幸いにも、最近はず調子が良く、常にこれをクリアしており、これも循環器科をはじめとする院内の皆様のおかげと感謝しております。これからも日々頑張っていく所存ですので、皆様の暖かい御協力と御支援をよろしく御願ひします。



手術中の白澤先生

麻酔科

麻酔科部長 坂本 賢一

当院麻酔科は、伊藤雅治前々院長(現名誉院長)により1984年に創設され、来年で満20周年を迎えます。創設と同時に日本麻酔学会指導病院に認定され、以後、東予地区の中核的な麻酔科として、手術室の麻酔業務、ペインクリニック、高圧酸素療法などで多くの臨床的実績を残してきました。伊藤先生や現部長の坂本の専門がペインクリニックであったこともあり、日本ペインクリニック学会指導病院にも認定され、带状疱疹、顔面神経麻痺、三叉神経痛、などでは多くの論文や学会発表を行い、治療成績の向上に努めてきました。手術室の麻酔業務では、年間約1,200例の手術症例を扱っておりますが、『安全、確実、公平』をモットーに外科系各科の信頼に足る麻酔科であり続けたいと努力しております。

今夏、新居浜市内の65歳の男性が、朝鮮アサガオのつぼみをオクラと間違えて食べ、急性スコポラミン中毒で県立新居浜病院救急救命センターへ入院するという事故がありました。朝鮮アサガオは、別名Datura(ダツラ)とも呼ばれ、夏に幻想的な美しい白い花を咲かせる観葉植物として根強い人気がありますが、私はこの事故を聞いてすぐに、Daturaから抽出した『通仙散』を用いて1804年10月13日に世界で初めて全身麻酔下に乳癌の手術に成功した華岡青州の偉業を思い出しました。日本の麻酔学はこのような輝かしいスタートを切り、以来200年、多くの先人の努力により発展してきましたが、現在、麻酔科医不足という大きな課題に直面しております。当科もその例外ではなく、慢性的なマンパワー不足に悩んでおります。さらに、当院や医療を取り巻く状況は大きな変革期を迎え、来年度以降、独立行政法人への移行、卒後研修制度の開始、DRG-PPSやクリティカルパスの導入、さらに目前には病院機能評価の受審も迫っております。こうした未曾有の山積する課題のクリアに当科も全力を挙げて取り組みたいと思っております。職員の皆様にはご迷惑をおかけすることもあると思ひますが、ご理解ご支援宜しくお願ひ申し上げます。



麻酔中の西田先生

病診連携室から

8月初旬にメンバーを新たに、病診連携委員会の初会合がもたれました。委員会の目的は、近隣の医療機関との連携を深め、より多くの紹介患者様を受け入れることにあります。1回目は現状の把握、今後の取り組みについての話し合いでしたが、問題点が多岐にわたり、途方にくれてしまったというのが率直な感想です。

病診連携室の目標のひとつに紹介率のUPというものがあります。これを目指すには、より多くの救急車を受け入れること、初診の患者様にはなるべく紹介状を持って来ていただくこと等の方法が考えられます。どちらも現段階では、手探りで進めている状態です。とにかく病診連携室として走り出してしまった以上、不都合な点が出たら機敏に軌道修正するという方法で、完成を目指していきたくと考えております。

現在、進めている取り組みを紹介いたします。

1. 病診連携室の案内ファイルの作成

ファイルの内容は、院長の挨拶、病診連携室を通した予約方法の案内、FAXによる受診・検査の依頼書、全医師の紹介、各診療科の紹介、外来診療担当医表等からなります。完成したファイルは、近隣医療機関の先生方を順次訪問してお渡しし、ご説明させていただきます。

2. 紹介をいただいた先生方との連絡

紹介患者様の予約、受診報告、逆紹介等の連絡は、すべて病診連携室で対応いたします。

連絡をスムーズにする為、病診連携室専用の直通電話とFAXを設置いたしました。

病診連携室 TEL 0897-33-6199 FAX 0897-33-6198

3. 紹介患者様のスムーズな受け入れ

連絡のあった患者様については、病診連携室が事前にカルテを作成し、受診時の患者様の待ち時間短縮に努めます。また、通常勤務帯で依頼のあった紹介患者様・救急患者様については、即座に対応させていただきます。

4. 紹介患者の把握

紹介で来られた患者様の見落としがないよう、各診療科窓口と連絡を密にいたします。

5. 近隣医療機関への訪問

各医療機関の現状の把握等を目指し、近隣医療機関との交流をより深めていきたくと思っております。

*** これらの取り組みをよりスムーズにするために、皆様のご協力をお願いいたします。**

最後になりましたが、準備にご尽力いただきました皆様方に、深謝いたします。まだまだ走り始めたばかりで、これからが大変になってくるとは思いますが、委員会の連携もうまく進んでいくように取り組んで参りたいと思っております。

病診連携室長 友澤 尚文

市民公開講座『ウイルス性肝炎の克服をめざして』を終えて
内科医師 中井 一彰
40名以上の市民の方々が参加され、皆様方の健康に対す

る関心の高さを感じさせられました。皆様の御期待に十分
応えられる様な講座を目指して、我々労災病院スタッフ一同
日々精進していきたくと思っております。

回数	開催年月日	演 題	講 師	座 長
第1回	15.09.18(木)	ウイルス肝炎の克服をめざして		森重一郎副院長
		① ウイルス肝炎とは	西岡幹夫院長	
		② どんなときインターフェロン治療を始めるか	宮内嘉明医師	
		③ 肝炎ウイルスの検査	林原 正技師長	
第2回	15.10.09(木)	ピロリ菌とは		田邊一郎医師
		① ピロリ菌と胃の病気について	西川 潤医師	
		② 内視鏡検査の上手な受け方	永井美温内視鏡技師	
第3回	15.11.20(木)	脳卒中について学ぼう		伊藤 毅医師
		① 脳卒中について	新川修司医師	
		② 脳卒中看護の要点(退院に向けて)	高橋雪子看護師長	
第4回	15.12.18(木)	動脈硬化について		佐藤 晃医師
		① 動脈硬化とそれによる心疾患	谷川武人医師	
		② 動脈硬化を予防する食事について	中野恵子栄養管理室長	
第5回	16.01.15(木)	お馴染みの外科の病気		味生 俊医師
		① 乳癌とは	花田明香医師	
		② 痔とは	原田昌和医師	
第6回	16.02.19(木)	なぜ腰痛はおこるか		砂金光藏医師
		① 腰痛の原因は	米村 浩医師	
		② 予防法と治療法	越智康博医師	
		③ リハビリテーションの実際	多田羅昭二技師長	

病院ニュース「いしづち」の由来

病院長 西岡幹夫

我々の病院ニュース、創刊号がめでたく発行されたのを機に、この広報紙名を全職員から公募しました。早速、31件の紙名とその応募理由が届きました。これらについて病院広報紙編集メンバーで無記名投票をし、慎重に審議した結果、「いしづち」という紙名に最終決定しました。

石鎚山は云わずと知れた、西日本の最高峰、そして日本七霊山の一つ、石鎚神のいます山としてあがめられる名山です。著書、四国百名山(山と溪谷社)の中に尾野益大氏の話があります。東日本出身で、山にベテランの転勤者が「四国には山があるの?」、しかし、石鎚山、剣山、立石山などを登り、認識を改め、「そこには深い森があり、溪谷が発達

している。見渡す限りの山並みを天辺に立て初めて教えられた。そして信仰の山、伝説の山、花の由、…四国には日本アルプスにもない独自の魅力がある」と述べたそうです。

「石鎚山にあやかり、当院も独自の魅力ある病院を目指す」というのが、「いしづち」を選んだ理由なのです。なお、この当選者は、南5階病棟スタッフ一同、近藤利子師長、西岡幹夫の3名でした。

最後に、佳作を少々紹介し、合わせて応募された皆さんにお礼を言わせていただきます。「えひめの和-なごみ、Rousai Time ころ、フレッシュ 労災、メディカルニュース-いよかん、にいたかばし、ER-ER、つづみ、ひうち、つがざくら、こくりょう、せとうちのかぜ、しおかぜ、東風、ひうちの輝き、むげん」などなどでした。

「88クリーンウォーク四国」奮闘記

会計課長 新城 俊雄

「クリーンウォーク四国」の概要は、自由コース、モデルコースの中からコースを選び、早朝から1時間程度歩きながら清掃をするという内容です。当院は自由コースを選び、新高橋周辺(50m)及び新高橋から敷島橋までの道路(1km)清掃を6時から1時間行うことにしました。当初予定されていた8月8日(金)は、台風10号の接近で急遽中止となり8月18日(月)に変更となりました。当日は午前5時50分に病院正面玄関前に集合し、武沢事務局長を始め事務職5名、薬剤部4名、看護部7名の総勢16名によるクリーン作戦を展開しました。各自がゴミ袋と火ばさみを持って指定された清掃範囲を積極的にゴミの収集に回りました。清掃作業の途中で、散歩、ジョギング等をする人達と会話を交わしながらの充実した作業でした。ただ残念なのはゴミの内容ですが、前夜楽しんだ花火の残骸、建物からの建築

廃材の不法投棄等が見受けられとても残念でした。今後街の美化に気を付けたいと思いました。

また勝った!

歯科副部長 千葉 晃義

先日9月6日(土)中四国サッカー大会が行われ優勝しました。中四国7大会で4回優勝、過去の全国大会でも2位、3位とかなりの勝率を誇っています。さしずめ愛媛のレアル・マドリードってところですか!

勝因は、愛媛のベッカム伊藤先生、闘将ダウンガこと佐竹先生、そして黄金の中盤:超ベテラン永易さん、新居浜が誇る福西とちょっと似の近藤君、その他伊藤君、藤井君、小川君、吉中君、鈴木君、そして美女軍団:真鍋さん、岡部さんのみんなが、勝つために1つにまとまり、諦めず、粘り強く頑張れたことと思います。

来年は、全国大会が開催される予定、悲願の全国制覇目指し頑張ります。資金面と声援お願いします。

今月の一句

夏蝶の

樹海を渡る

速さかな

みさお

夏のうだるような暑い日、屋敷山を散策しました。樹々が茂った緑の海原を夏蝶が勢いよく飛んで行く、その速さに驚き、元気を貰いました。「滅却心頭火亦涼」(心頭を滅却すれば火もまた涼し)が口をついて出てきました。織田信長勢に火を放たれた甲斐の慧林寺住僧、快川禅師は端座して、この句を唱えて焼死したと言います。皆さん、楽しい夏も終わりました。もう秋ですね。



編集後記

今回の広報紙も多くの方々からのご寄稿をいただきありがとうございました。6万年ぶりに接近した火星が見られた記念すべき9月に、病院ニュースの紙名が新しく、「いしづち」と命名されました。本号では、新しく始まった市民公開講座を含む、いろいろな活動報告が皆様方より寄せられ、院内外での当院の役割、皆様の意欲の高まりを感じております。また、スポーツで活躍している職員、今回で3句目となり楽しみになってまいりました西岡院長の俳

句など、当院の仕事以外の多彩な趣味なども紹介しております。今後も、院内外での活動や、職員の新たな一面を随時掲載してまいります。豊かな自然をたたえ、新居浜に恵みをもたらしてきた石鎚のように、この「いしづち」が当院の発展の一助となれたらとの思いで、編集委員一同紙面作りに取り組んでおります。ご意見ご感想がございましたら委員までお寄せいただけるようお願い申し上げます。(K.N.)

院内広報紙編集メンバー

病院長(西岡幹夫), 医局(宮本和久, 稲見康司, 宮内文久), 看護部(峰平一二美, 土居しのぶ), 庶務課(佐藤 求, 稲富小百合), 医事課(秋岡裕子), 薬剤部(宮崎哲一), 放射線(高松克征), 検査科(林原 正), リハ科(多田羅昭二), 栄養管理室(中野恵子)